



「パラ水泳」

第0～1時

作成: 藤田 武士 (茨城県立協和特別支援学校)

あらかじめ「パラ水泳」の4話分を視聴しておくといよい。

1 本時のねらい

主人公の言動から心の変化について考え、「拓の水泳に対する気持ちの変化」に気付くことができる。

2 本時の展開例

指導内容

導入

1 番組をもう一度、1話分を視聴する。

- 各自が付箋に書き出し、グループ毎に1枚の用紙に貼り付ける。
- 貼り付けた付箋を、テーマに沿って分類してみてもよい。

展開

2 登場人物の言動から気持ちを考えたり、心の動きを読み取ったりする。

- 番組から読み取った主人公の言動や気持ちを付箋に書き出す。
ポジティブな言動・・・ピンクの付箋
ネガティブな言動・・・ブルーの付箋
これらの付箋を、番組の時系列に合わせて、大きな用紙に貼り付ける。
- 言動から読み取れる主人公の気持ちについて話合う。
主人公の言動について、その気持ちを考え、黄色い付箋に書き出してみる。
また、周囲の人から主人公へのアドバイスなどがあった場合には、グリーン色の付箋に書き出し、貼り付ける。

3 気持ちのバロメーターを、心のグラフとして表す。

- 付箋を貼り付けた大きな用紙の下部に心の変化のグラフを書き込む。
○心のグラフが下降しても、ポジティブな表現があったり、反対に、ネガティブな表現が多くても心のグラフが上昇していることがあったりすることに焦点を当て、その理由も考えてみる。

終末

4 第1話の中で印象に残った場面を書き出す。

- 難しい場合は、第1話のポイントだと思った(感じた)台詞でもよい。
また、第1話の「題名(テーマ)」を考えてもよい。



「パラ水泳」

第2時

作成: 藤田 武士 (茨城県立協和特別支援学校)

1 本時のねらい

主人公の言動から心の変化について考え、「創意工夫することのよさ」に気付くことができる。

2 本時の展開例

指導内容

導入

1 番組をもう一度、1話分を視聴する。

- 各自が付箋に書き出し、グループ毎に1枚の用紙に貼り付ける。
- 貼り付けた付箋を、テーマに沿って分類してみてもよい。

展開

2 登場人物の言動から気持ちを考えたり、心の動きを読み取ったりする。

- 番組から読み取った主人公の言動や気持ちを付箋に書き出す。
ポジティブな言動・・・ピンクの付箋
ネガティブな言動・・・ブルーの付箋
これらの付箋を、番組の時系列に合わせて、大きな用紙に貼り付ける。
- 言動から読み取れる主人公の気持ちについて話合う。
主人公の言動について、その気持ちを考え、黄色い付箋に書き出してみる。
また、周囲の人から主人公へのアドバイスなどがあった場合には、グリーン色の付箋に書き出し、貼り付ける。

3 気持ちのバロメーターを、心のグラフとして表す。

- 付箋を貼り付けた大きな用紙の下部に心の変化のグラフを書き込む。
○心のグラフが下降しても、ポジティブな表現があったり、反対に、ネガティブな表現が多くても心のグラフが上昇していることがあったりすることに焦点を当て、その理由も考えてみる。

終末

4 第1話の中で印象に残った場面を書き出す。

- 難しい場合は、第1話のポイントだと思った(感じた)台詞でもよい。
また、第1話の「題名(テーマ)」を考えてもよい。



「パラ水泳」

第3時

作成: 藤田 武士 (茨城県立協和特別支援学校)

1 本時のねらい

主人公の言動から心の変化について考え、「ライバルの意味やその存在のよさ」に気付くことができる。

2 本時の展開例

指導内容

導入

1 番組をもう一度、1話分を視聴する。

- 各自が付箋に書き出し、グループ毎に1枚の用紙に貼り付ける。
- 貼り付けた付箋を、テーマに沿って分類してみてもよい。

展開

2 登場人物の言動から気持ちを考えたり、心の動きを読み取ったりする。

- 番組から読み取った主人公の言動や気持ちを付箋に書き出す。
ポジティブな言動・・・ピンクの付箋
ネガティブな言動・・・ブルーの付箋
これらの付箋を、番組の時系列に合わせて、大きな用紙に貼り付ける。
- 言動から読み取れる主人公の気持ちについて話合う。
主人公の言動について、その気持ちを考え、黄色い付箋に書き出してみる。
また、周囲の人から主人公へのアドバイスなどがあった場合には、グリーン色の付箋に書き出し、貼り付ける。

3 気持ちのバロメーターを、心のグラフとして表す。

- 付箋を貼り付けた大きな用紙の下部に心の変化のグラフを書き込む。
○心のグラフが下降しても、ポジティブな表現があったり、反対に、ネガティブな表現が多くても心のグラフが上昇していることがあったりすることに焦点を当て、その理由も考えてみる。

終末

4 第1話の中で印象に残った場面を書き出す。

- 難しい場合は、第1話のポイントだと思った(感じた)台詞でもよい。
また、第1話の「題名(テーマ)」を考えてもよい。



「パラ水泳」

第4時

作成: 藤田 武士 (茨城県立協和特別支援学校)

1 本時のねらい

主人公の言動から心の変化について考え、「挑戦することのよさ」に気付くことができる。

2 本時の展開例

指導内容

導入

1 番組をもう一度視聴する。

- 各自が付箋に書き出し、グループ毎に1枚の用紙に貼り付ける。
- 貼り付けた付箋を、テーマに沿って分類してみてもよい。

展開

2 登場人物の言動から気持ちを考えたり、心の動きを読み取ったりする。

- 番組から読み取った主人公の言動や気持ちを付箋に書き出す。
ポジティブな言動・・・ピンクの付箋
ネガティブな言動・・・ブルーの付箋
これらの付箋を、番組の時系列に合わせて、大きな用紙に貼り付ける。
- 言動から読み取れる主人公の気持ちについて話合う。
主人公の言動について、その気持ちを考え、黄色い付箋に書き出してみる。
また、周囲の人から主人公へのアドバイスなどがあった場合には、グリーン色の付箋に書き出し、貼り付ける。

3 気持ちのバロメーターを、心のグラフとして表す。

- 付箋を貼り付けた大きな用紙の下部に心の変化のグラフを書き込む。
○心のグラフが下降しても、ポジティブな表現があったり、反対に、ネガティブな表現が多くても心のグラフが上昇していることがあったりすることに焦点を当て、その理由も考えてみる。

終末

4 「可能性の扉」について考える。

- 主人公のどのような言動や気持ちの変化によって、可能性の扉を開けることができたのか、開けることができなかった原因はなんだったのか、開けることができたきっかけはなんだったのか、考えてみる。

パラ水泳 日本代表候補 山田拓朗選手の言葉に触れ、自分に置き換えて考えてみる。

「選手によって障害は違うので、お手本がない。自分で考えて作っていきかかないところが、難しいところでもあり、面白いところでもある。」
「できないことがたくさんあるってところで、そこにチャレンジしたい。」

★第4話 5分20秒からのシーン

「変わるって悪いことばかりじゃない。前みたいにいかないときもあるけれど、できることも増えている。時間が経って、形を変えてしまうこともあるけれど、自分から変えていくこともできる。」

このシーンも踏まえて、考えるのもよい。